

大丈沢

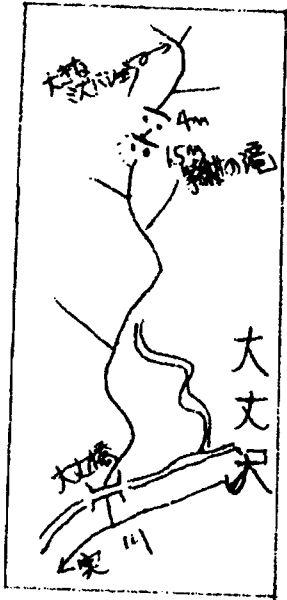
1988年7月31日

七入橋近くの実川林道ゲートから歩き始め、25分で大丈沢橋に着く。さっそく遡行開始。30分程遡行すると、右岸にブナの原生林が見えてきた。さらに30分程進むと、伐採用の林道と伐採従事者用の休憩小屋が見えてきた。

流木と倒木に埋まる沢はさらに奥へと続き、15mの「紫紺の滝」の手前まで続く。紫紺の滝は右岸から高滝く。そのすぐ上には、4mの滝が続いていた。

3時間近く遡行した頃から、沢はゆるい傾斜となり、50cm~1m程のミスバショウが現われ始める。そのまま源頭部の湿地帯となり、沢ははっきりしなくなる。10時、遡行終了。

(記)



【タイム】 七入(6:45)→大丈沢橋(7:10)→遡行終了(10:00)

上曲沢

1988年7月31日

L

台

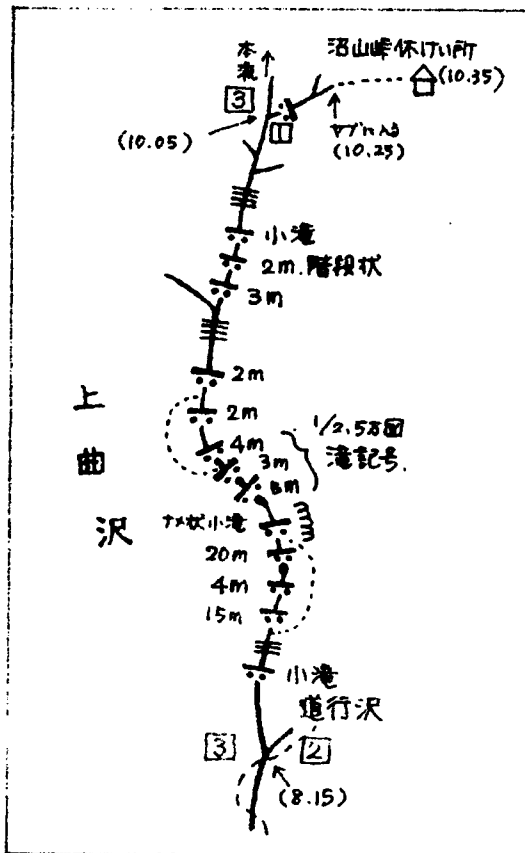
天気晴。遡行沢ぞいにつけられた登山道を進み、上曲沢に入る。水量比は3:2で、上曲沢の方が多い。

平凡な沢を進み、ナメを過ぎると初めての滝。15mはあろうか。左岸を捲いてゆくと、4m、そして20mの釜のある滝が現われる。3つの滝を一気に捲いて沢に戻る。ここは左岸が崩れて、明るく開けていた。

まもなく5m、3m、4m、2mと連続して滝が現われる。1/2.5万地図の滝の記号のある所である。空から見ると一つの大きな滝に見えたのであろうか。落差こそ小さいが、連続した滝はどんどん高度をかせいでくれる。下の2つは直登、上の2つは右岸を捲いて通過する。

なおも小滝が続くが、左右からの枝沢を過ぎるたびに、目に見えて水量が減ってくる。このあたりからサンショウウオを捕獲する「ドウ」や、ジュースの空缶など、人間の気配が感じられてくる。

地図を見て支沢に入り、沼山峠の休憩所をめざす。ヤブはこくなり、真っ黒なぬかるみに足をとられながらつめてゆく。沢から離れヤブに入る。すぐ発電機の



音が聞こえてくる。音に向かって10分。休憩所に到着。ひとごみの休憩所でひと息ついて、登山道を下る。

(記)

[タイム] 七入(6:45)→道行沢出合(7:20)→上曲沢出合(8:15)→沼山峠休憩所(10:35)

赤法華沢

1988年7月31日

I

七入から赤法華沢まで、30分程である。出合はあまりにも貧弱な沢で、私達はここを通り過ぎてしまう。道行沢まで行って、通り過ぎたことに気付く。赤法華沢出合に戻って、7:40遡行開始。

沢幅は小さく、水量も少ない。所々両脇から灌木が覆い、歩きづらい。沢は蛇行しながらゆるやかに高度を稼いでゆく。8時過ぎ、初めての小沢が出会う。その後何本かの小沢が分かれ、沢は細くなり瀬頭の様相を見せてくる。この間滝はひとつもない。8:30遡行を終了し、下降にかかる。結局、この日は50分程の河原歩きであった。

[タイム] 七入(6:45)→赤法華沢出合(7:20, 7:40)→沢終了(8:30)

硫黄沢

1988年10月9~10日

七

10月9日 福島(20:20)⇒七入(24:10)
七入まで車を飛ばし、仮眠。

